

学校だより



第135号



独立行政法人 国立高等専門学校機構
群馬工業高等専門学校
National Institute of Technology (KOSEN), Gunma College

〒371-8530 群馬県前橋市鳥羽町580番地 <https://www.gunma-ct.ac.jp/>

2025.6.23 広報委員会発行

CONTENTS

巻頭言 入学おめでとうございます！／校長 大金 伸光……………	2
特集<入学・進級特集>	
新入生へのメッセージ／留学生紹介……………	3
入学にあたり……………	6
教職員より（各学科・教育研究支援センター）……………	12
着任挨拶……………	14
退任挨拶……………	15
本科・専攻科学校行事一覧……………	15
各施設から……………	16
学生相談室／図書館／国際交流室／ダイバーシティ推進室／	
情報基盤センター／インターンシップ支援室／進路支援室／	
産学連携アントレプレナーシップ教育工房／	
地域連携テクノセンター……………	19
NEWS&TOPICS ……………	19

（題字・下田 功 初代校長）

特集 〈入学・進級特集〉 新入生へのメッセージ



高専生活を楽しむために



教務主事
佐々木 信雄

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。この学校だよりが出る頃には、だいぶ群馬高専にも慣れたことと思います。何か楽しいことが見つけられたでしょうか？部活やコンテスト、資格試験、留学、インターンシップなどに打ち込んだ経験は、皆さんの財産になります。色々なことに挑戦してみてください。

一方、日々の勉強とのバランスが大切です。試験前に徹夜で勉強するのは効率がいいとは言えません。その場はしのげるかもしれませんが、記憶として定着しないでしょう。

最も効率的な勉強法は、一日の学習時間を決め、授業で出た課題や復習をその日のうちに終わらせることです。また、手を動かすことで記憶が定着します。

1年での学習内容は、高学年で学習することの基礎になります。勉強は手を抜かず、充実した高専生活を送ってください。

「ご入学おめでとうございます」



学生主事
高橋 徹

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そろそろ学校生活にも慣れた頃と思います。ところで、学校生活ならではの学びとは何でしょうか？以前、ChatGPTに「教育現場でAIにできないことはなにか？」と聞いてみたところ、教育の本質は「関係性」であり人が人を育てる状況をAIは作りにくい、といった回答が返ってきました。具体例として「余白の中で生じる学び」を挙げていました。例えば、休み時間の雑談や各種行事・共同作業の中で他者との相互作用を介し生まれる学びなどです。

私は以前、中学生を隔離して専門知識やレポートの書き方などを詰め込んだら卒業生と同じ能力を持つのか？と思ったことがありますが、おそらくそうはならないでしょう。講義以外の学校生活から無意識に学んでいることが思いの外多いのです。それは対人関係の構築であったり、困難に直面したときの対処法であったり、多岐にわたります。ぜひ群馬高専での学校生活を楽しみながら、「学び」を深めてください。

「Be Ambitious」



寮務主事
山内 啓

1年生の皆さん入学おめでとうございます。150年前にアメリカ東部から日本までやってきて、北大の礎を築いた北大初代学長でもあるクラーク博士は、「Boys, be ambitious, like this old man!」というメッセージを残して日本を去りました。不断のチャレンジであり、最近の言葉に言い換えるとアントレプレナーシップ、スタートアップ等を通して世界を変えようとしたチャレンジングな人生といえます。

高専での5年間の学びでは、技術者として社会を支えるのか、ユニークなアイデアで社会を変えるのか、様々な道を選べます。同級生だけでなく上級生・下級生とコミュニケーションをとり視野を広げてください。そして、専門だけでなくリベラルアーツなど様々な分野にも目を向けましょう。そんな学生生活で生涯の友を見つけて、切磋琢磨しチャレンジしてください。タイパやコスパも重要ですが、無駄に思えるモノの中にも重要なことはあります。皆さんのチャレンジを応援しています。

ようこそ、群馬高専へ、専攻科へ。



専攻科長
友坂 秀之

本科および専攻科の新入生のみなさん、ご入学、おめでとうございます。桜咲く晴れやかな日の、この新鮮な気持ちを忘れることなく、励みとして、新しい生活を満喫してください。気が早いかもしれませんが、卒業、修了を迎える日の自身を想像し、期待し、これから迎えるさまざまな困難に勇気を持って立ち向かい、乗り越え、さまざまな友人、希望、喜び、知識、技術、そして人間力を獲得してください。そんなみなさんをわれわれ教職員は支えます。

専攻科の2年間は、またたく間に過ぎます。専攻科での生活に慣れた来年の今頃は、就職や進学活動に取り組んでいることでしょうか。この2年間では、インターンシップを通し社会での厳しさや使命感、特別研究を通し研究の難しさや達成感、などを経験すると思います。インターンシップと特別研究、いずれも真剣に取り組むことで、その経験は大きなものとなるはずですよ。

巻頭言 入学おめでとうございます！



校長
大金 伸光

本科及び専攻科の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

今年度の新入生は、本科生209名、留学生1名、編入学生2名、専攻科生38名、あわせて250名です。

新入生の皆さん、群馬高専での生活が始まって数か月が経ちました。入学する前に皆さんがイメージしていた群馬高専と、実際に生活してみた学校の雰囲気とは違いますか？皆さんは、いろいろな夢や目標をもって群馬高専に入学されたことと思います。そのような夢や目標が実現するよう、在学期間を通して頑張ってください。

高専では、みなさんの自主性が尊重されます。した

がって、勉強においても、生活においても、「自分から取り組む」、「自分でやってみる」という自立への努力がとても大切になります。日頃から自学自習の習慣を身につけ、受け身の姿勢で指導を待つのではなく、明確な目的意識を持って、自ら学んでいこうという前向きな姿勢で学修に努めてください。

高専での生活は、勉学以外でも多くのことを学べる時間でもあります。高専には、学校行事やクラブ活動、国際交流活動、学内外のコンテストなど、様々な機会があります。こうした機会を通して多くのことを経験するとともに、教職員や先輩、友人と交流し、企業や自治体など学外の方々と出会う機会を数多く持つてください。こうした経験は、皆さんの今後の人生において、大きな財産になると思います。

皆さんの夢や目標が実現できるよう、教職員もできる限りサポートしていきますので、一緒に頑張ってください！



校長補佐
(研究・地域連携推進担当)
石川 英司

学びの出会いが未来を拓く

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい仲間と出会い、新たな挑戦が始まるこの春、皆さんの未来には無限の可能性が広がっています。

近年、生命科学とコンピューターサイエンスの融合によって生まれた「AlphaFold2」というソフトウェアが、タンパク質の立体構造予測の分野に革命を起し、ノーベル化学賞にもつながる画期的な成果を生み出しました。これは異なる分野を結びつける“学際的な視点”の重要性を示しています。

皆さんも、所属する学科の学びにとどまらず、他学科の友人や教員と積極的に関わり、さまざまな価値観や知識に触れてください。その経験が、将来の「エポックメイキング」な発見や創造につながるはずです。

高専での5年間、ぜひ学びの幅を広げ、仲間との交流を楽しんでください。皆さんの成長を心から応援しています。



校長補佐 (広報戦略担当)
大岡 久子

群馬高専の好きなところを見つけてください

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。心より歓迎申し上げます。さて、『群馬高専は好きですか?』

入学早々、「そんなことを聞かれても・・・」と戸惑う人もいるかもしれません。もしかしたら、「群馬高専の〇〇が好き!」とハッキリとした答えをすでに持っている人もいるかもしれませんし、逆に好きじゃないところが心に浮かんだ人もいるかもしれません。人の感性は人それぞれです。どんなところに“好き”を見い出すかもみなさんの自由です! 私には群馬高専の好きなところがたくさんあります。“好き”とは、モチベーションを上げる、動機づけとなる、共感力を深める、幸せを感じることに繋がります。ここでの高専生活がみなさんの人生を豊かにする糧となるよう、みなさんの“好き”を見つけるお手伝いや“好き”を応援していけたらと思います。



校長補佐 (評価・FD担当)
荒川 達也

好きなことを究めよう!

御入学おめでとうございます! 入学試験を無事に突破し、高専での学業や学生生活に大きな期待を抱いていることと思います。勉強には、好きなことを学ぶ楽しさと、嫌でもやらなくてはならない苦しさがありますが、どちらも大切です。そして高専はまさに、自分の「好き」をとことん究めることができる場所です。

みなさんが勉強している中で、一番楽しく感じる瞬間はいつでしょうか? 数学の難問が解けたときの達成感? 何度も失敗したプログラムがようやく動いた感激? 英語でスムーズにコミュニケーションできた喜び? 理論通りの実験結果が出たときの感動? それとも予想外の結果に対する驚きでしょうか? 高専には、みなさんがそれぞれの好きを見つけ、深めていくためのサポート体制が整っています。

この5年間でぜひ、自分の好きを見つけ、思い切り学んでください。教職員一同全力でお手伝いします。一緒に素晴らしい学びの時間を作りましょう!



後援会会長
吉田 涼子

「好き」を育てよう!

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

さて、技術が急速に発展し、目まぐるしく「常識」が移り変わっていくこの時代においては、柔軟に対応しながら、新たな価値を創造できる人材が求められています。そのためにも、皆さんにはこれからの高専生活で、学業はもちろんですが、ぜひ課外活動や趣味、友人や恋愛、バイトやボランティアなど、色々なことを経験し、今まで以上にたくさんの「好き」を見つけて欲しいと思います。「好き」が多いほど、そして深いほど皆さんの支えになり、これからの毎日がより楽しく、充実したものになっていくでしょう。「好き」を追い求めたり、究めたりしようとするれば、そこには「学び」が生まれ、「学び」は生きる力になり、それがおのずと「夢」に繋がっていくのだと思います。

私たち後援会は、皆さんの健やかな成長と、実り多き学生生活、そしてひとりひとりの「好き」な気持ち&「夢」の実現を全力で応援していきます!!



学生会会長 3C
小林 孝太郎

「自由」な高専でおもいきり〇〇!

ご入学おめでとうございます。新1年生のみなさんも初めてのテストを乗り越え、高専の生活にも慣れてきた頃だと思えます。

部活動や愛好会にも所属しましたか。新入生歓迎会でもお話ししましたが、これから5年間の生活の中で皆さんに大きな変化をもたらすことでしょうか。不安や心配ごとはぜひ知り合った先輩や担任の先生方に気軽に聞いてみてください。きっと、皆さんの心強い味方になってくれるはずです。また、今年度は2年に1度の工華祭があります。実行委員になった皆さんはぜひ積極的に活動していただき、実行委員ではない方もぜひクラスの活動に積極的に参加してください。

「自由」をどのように活かすのかは、皆さん次第です。高専には他の学校よりも長い休みもあります。まずは自分から一歩、踏み出してみてください。皆さんの活躍を心から応援しています。



工華祭実行委員長 4M
津金 暖人

Let's enjoy 工華祭

いよいよ工華祭の年がやってきました!! 1・2年生は初めての工華祭でどきどきわくわくしていることでしょうか。3・4・5年生は前回の工華祭の経験を生かして儲けようと考えている人であふれていることでしょうか…。

余談はほどほどにして、工華祭は高専ならではの展示や企画など、普段はぱっとしない教室や、メインストリートがお祭り騒ぎになるイベントです。特に、クラス企画は各クラスの特徴が出ていて、すごく見ごたえがあると思います。クラスで数か月かけて準備して完成した企画をみるのがすでに待ち遠しいです。

また、ステージ企画も目玉企画の1つです。ダンスや、バンド、コンテストも? みんなで盛り上げられること間違いなしですので、よかったですらステージ企画にも足を運んでみてください。これだけでは収まりきれないほど、工華祭は楽しくて達成感や充実感に満ちたイベントです。記念すべき第25回工華祭をみんなで盛り上げていきましょう!!

入学式



留学生紹介



留学生 3J
ライ ウィジアパーコン

不安の中の安心

カンボジアからきたパルクンと申します。四月、桜が咲きはじめて頃、私は群馬高専に来ました。小雨の中、学生課を探しながら「どう話そう」と緊張していましたが、先生と交わした言葉で、その不安はすっと消えました。一ヶ月がたち、少しずつ生活に慣れてきました。心を落ち着かせてくれる理由は、毎朝カーテンを開けると見える山の風景かもしれませんが、何より支えになったのは、先生やクラスメートのやさしさでした。ゆっくり話してくれたり、簡単な日本語で説明してくれたりして、わからないことがあっても、助けてくれる人がいるおかげで安心して学んでいます。勉強は決して簡単ではなく、専門用語や授業の速さに戸惑うこともあります。不安な気持ちはまだありますが、前に進むしかないと思い、できることを少しずつ広げていきたいです。



1年1組

(教員左から 副担任、大金校長、正担任)



1年2組

(教員左から 副担任、大金校長、正担任)

interview

Teacher

群馬高専での学びに期待しています！

1年1組 正担任 難波 宏彰

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。群馬高専での生活は、これまでの学びとは違う、挑戦や成長の機会があります。また、多くの進路選択の中から高専という学校を選んで来てくれたことに嬉しく思います。

高専では、科学技術の最前線を学び、新しいアイデアを生み出す力を育て、自分自身の力を存分に発揮できます。さらに、夢を描き、それを実現するための努力を惜しまないことが大切です。

これからの時代に必要とされる力は、社会や技術の変化に対応するために多岐にわたります。高専では科学技術だけではなく、問題解決能力や異文化理解、多言語でのコミュニケーション能力、環境問題や社会的課題に対する事柄についての経験と学びがあります。

様々な経験を通じて多くを学んでください。これからの成長と活躍を心から応援しています。実りの多い5年間のスタートになることを期待しています。

Student

生徒から学生へ

1年1組 小板橋 雅人

1年1組 小西 祐輝

令和7年、4月私たちはこの学校に入学することができました。入学式では新しい環境に将来への希望と不安を抱えていましたが、先輩や先生方の温かい歓迎により新しい一歩を踏み出すことができました。入学式後の教室では、新たな仲間達と顔を合わせこれからの生活へのスタートラインを切ったようでした。1か月前までは中学生で、2カ月前までは受験勉強に努めていましたが、今では胸を張って高専生といえるようになりました。

こうして始まった高専生活には、やはり中学校とは違うことがたくさんあり、朝の登校や昼休みの過ごし方が大きな変化の例でした。最初はそれらの違いに戸惑いましたが、徐々に慣れていき充実した日々へと変わっていきました。

そして、これからは変化した環境を利用しつつ、勉強にも重きを置き、充実した高専生活を送りたいです。

interview

Teacher

ご入学おめでとうございます

1年2組 正担任 奈須田 祐大

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんのそれぞれが、それぞれの想いをもって、5年間の高専生活をスタートさせたことでしょうか。この「5年間」という時間は全員に等しくあって、長いようで短く・短いようで長い時間です。

私から1つアドバイス(?)をするならば、是非、いろいろな人からいろいろな影響を受けてください。「影響を受ける」というと、ときにネガティブな印象を与えます。しかしそれは、特定の人からの偏った影響や、他者を無批判に信じ込んでしまう場合です。高専には、今までに出会ったことのないタイプの人間が学生にも教員にもたくさんいる筈です。10代後半のこの時期に外部から受ける刺激は、少なくとも私の経験上、「自分自身」を確立するための大事な材料です。そしてそれらは、今後の成長・発展の「きっかけ」となることでしょうか。

皆さんの5年間がよいものとなることを心から願っています。

Student

ニューノーマル

1年2組 荒木 美紅

群馬高専に入学して数カ月たつ今、私は丁寧に教えてくださる先生方や先輩方、親切で明るい友達のおかげで充実した高専生活を送ることができています。まだ新しい環境に慣れていないところもありますが、徐々に慣れていきたいです。

題名にもあるように今までと違う日常に変化している中で、私は特に90分授業に慣れることができるか初めは不安で身構えていました。しかし、毎回の授業が興味深く、内容に納得し自然に集中できるので時間が過ぎていくのが早いと感じます。毎回の授業を身に付けるためにしっかり集中して受けていきたいです。

私はこれから群馬高専で学べる貴重な事を身に付け、実践できるように様々なことに興味を持ち行動に移していきたいと思います。そのためには基礎である1年の学習を疎かにせず取り組んでいきたいです。



1年3組

(教員左から 副担任、大金校長、正担任)



1年4組

(教員左から 副担任、大金校長、正担任)

interview

Teacher

面白いことに
チャレンジしよう

1年3組 正担任 伊城 慎之介

群馬高専は専門性の高い技術者や研究者を育成するための研究機関であり、早い段階から専門分野の研究に携わることができます。まずは、自分が「面白い!」と思うことを大切にして、どんどん挑戦して下さい。様々なことに挑戦していく中で、難しさに直面して立ち止まってしまうこともあるかもしれませんが、失敗することもあるかもしれません。しかし、それを乗り越えた先には、今まで感じたことのないような面白さや達成感を味わうことができるはずです。失敗を恐れずに挑戦し続けて、自分自身をさらに成長させてください。

また、研究が進んでくると、日本国内や海外で自身の成果を発表する機会も出てくるでしょう。そうした経験は、自信となり、さらなる成長につながるはずです。これからの5年間が実り多いものになることを願っています。

Student

有言実行頑張ります!

1年3組 塚原 めぐみ

小学生の頃に私は高専について知り、中学生の頃に体験授業や工華祭に参加しました。実際に先生方の丁寧なご指導や先輩方の真剣に講義を受けている姿を見つけて、「私もそんな高専生になって、自分のしたいことを極めていきたい」と決意し、受験に挑みました。だからこうして入学できて本当に良かったです。入学して感じたことは、「自分らしさ」を大切にできる環境があることです。自分の「好き」を共有すると、共感し合えたり、一緒にハマってくれたり...!!高専には色々な趣味を持った方たちがたくさんいるので、もっと自分の好きなことを広げることができて、毎日がとても楽しいです。

高専に入学できたことはゴールではなく、むしろスタート地点だと私は思います。より一層勉学に励み、後悔のないよう自分の目標に向かって努力を重ねていきます。宣言したからには諦めずに頑張ります!

interview

Teacher

ようこそ、群馬高専へ

1年4組 正担任 櫻岡 広

1年生の皆さん、入学おめでとうございます。でも、この学校だよりが発行される頃には入学して3カ月ほどたっているでしょうから、「群馬高専はどうですか?」と聞くほうが良いのかもしれませんが。

さて、私は教員になってから、ずっと気になっていることがあります。それは色々な分野で早期教育が進んでしまっていることです。例えば、文字や計算を就学前から教えたり、スポーツの世界では小学校低学年で全国大会が開催されたりしています。物事を覚えたり、動作を覚えるということには適期があります。慌てなくても成長に伴って獲得できるものがたくさんあります。教育にまでコストパフォーマンスが求められるようで、非常に危惧しています。

皆さんは、この学校で5年間(あるいは7年間)じっくり腰を据えて勉強し知識を蓄えていって下さい。その知識をもとに活躍するのは、社会に出てからで十分です。皆さんの人生にとって学校というものは、あくまでも通過点です。

Student

『いざ、憧れの学び舎へ!』

1年4組 渡部 颯楽

第一志望の高専への合格、本当に嬉しくて、入学式の日を迎えるまでずっと胸が高鳴っていました。念願の学び舎に足を踏み入れた今、期待と少しの緊張が入り混じった、新鮮な気持ちでいっぱいです。

しかし、入学手続きのときに受け取った教科書の多さには驚きました。まだ学習は始まったばかりですが、中学校までとは全く異なる専門的なカリキュラムに、これから自分が何を学び、どのように成長していくのか、想像するだけでワクワクします。

専門分野の学習は決して簡単ではないだろうと覚悟しています。自分が本当に学びたいことを深く追求できる環境に身を置けた喜びが、どんな困難にも立ち向かう原動力になると信じています。

群馬高専に入学できたこの機会を最大限に活かし、将来の夢に向かって大きく飛躍できるよう、精一杯努力していきたいと思います。



1年5組

(教員左から 副担任、大金校長、正担任)



専攻科

(教員左から 副専攻科長、大金校長、専攻科長、副専攻科長)

interview

Teacher **これからの高専生活に向けて**

1年5組 正担任 **小菅 智也**

前期中間試験も終わり、少しずつ授業外のことに目を向ける余裕が出てきた頃かと思えます。本校には、部活動やコンテスト、各種研修等、挑戦の機会が数多くあります。これからの5 (or 7) 年間、積極的に新しいことに挑戦し、多くの知識や技術、そして多角的な視点を身につけていってください。挑戦には失敗がつきものですが、失敗できるというのは、ある意味で学生の特権です。在学中にたくさんの失敗を経験し、そこから学びを得てください。そのうち、失敗と思っていたことが、実は成長のきっかけだったと気づく日が来るはずですよ。また、挑戦、失敗の中に「自分なりの楽しさ」を見いだせるようになってほしいと思います。物事を前向きに楽しめるようになると、そこから得られる学びも深まるはずですよ。変化の激しい現代社会において、どんな状況にも柔軟に対応できる力を、これから少しずつ養っていきましょう。皆さんの成長を心より応援しています。

Student **自由ということ**

1年5組 **矢嶋 悠**

念願の高専に入学できたと思っていたら、あっという間に桜が若葉をつける時期になっていた。高専での生活はすべてが新鮮で、自由度が高い。例えば携帯の使用。休憩時間に動画を観たり、ゲームをしたり...とにかく何でも出来てしまう。さらに服装や髪形もほぼ制限がなく、至る所に自由を感じる。しかし、高専に入学してからある言葉を頻繁に耳にするようになった。“自己責任”だ。自由だからといって後先を考えずに行動していると痛い目を見るのが高専だ。私も携帯とにらめっこばかりして臨んだ初の小テストの結果はズタボロだった。他の高校生たちとは比べ物にならないほどの大きな自由を手にした代わりに、そればかり気にかけていると自分の本来の目的を見失ってしまう。高専は自分の夢のための通過点、ということをお忘れずに勉強に励んでいきたい。

interview

Student **高専6年生になりました**

生産システム工学専攻 1年 **三井 知世**

最近、大学生なのかとかこの大学なのかとか聞かれても答えるのがめんどくさいです。高専を知っていても専攻科を知っている人はあまりいないみたいなので、4、5年生の時からです大学生だと言ってしまうことがあります笑。5年間みてきた景色も寮生活も代わり映えがなくて新鮮さもないけど、新しい環境に慣れるのに時間がかかる私には合っているかもしれないです。一方で多くの友達が就職したり編入したりで高専からなくなってしまっても寂しく感じています。そんな中、寮の後輩や部活の後輩、弟の友達など学年の違いを感じないくらい仲良くしてくれる人がいるのは嬉しく思います。最後になりますが、明確な夢や目標があるわけでもなく興味本位で転学科して専攻科に入った私の背中を押してくれた家族や、多くの面でご指導ご支援して下さる教職員の方々に感謝の気持ちをもって、専攻科の2年間が有意義なものになるようにしたいです。

Student **明日はどの課題が提出かな**

環境工学専攻 1年 **小手川 温陽**

私たちは4月4日に専攻科に入学しました。卒業してからまだ1ヶ月も経たない中での入学式。見慣れた校舎、先生、人数が減った友達—環境はほぼ変わらず、真新しさを感じることはほとんどありませんでした。コロナ禍で本科の入学式を経験できなかったため、今回が初めての入学式となり、少し楽しみでもありましたが、入学式自体は気づいたら始まっており終わっていました。専攻科の一年生は大変だと聞いていましたが、入学当初はその実感がなく、全科目が学修単位科目であることの意味も十分には理解していませんでした。本格的に授業が始まると、講義のたびに課題が出され、何をこなすべきか分からなくなっていく日々。さらに提出期限が重なり、ついに地獄の幕が開けました...まだ始まったばかりの新生活。この先どんな試練が待っているのか、少し楽しみにもなっています。

〈入学・進級特集〉教職員より(各学科・教育研究支援センター)

新1年生のみなさんへ

一般教科長(人文科学) 宮川 剛

みなさんは、四月の「歴史」の授業でイギリスの産業革命について学びましたね。産業革命というと、ワットなどの発明家にスポットライトが当たりますが、教科書にも書かれていたように、大西洋三角貿易や農業革命など、一見すると製造業や技術に直接関係のないように思われる事柄も重要な役割を果たしていました。技術は社会から



孤立して存在しているのではなく、社会の中のいろいろな動きの影響を受けつつ、同時に社会そのものを変えていく、ということを示しています。これは現代でも変わらないでしょう。

優れた技術者や研究者になるためには、社会や世界の動きを正確に認識し、問題点を的確にとらえる能力と、研究を粘り強く継続できる強靱な心身が必要です。英語、国語、社会、体育といった人文科目の勉強は、みなさんが将来活躍するための土台を形作るのに大いに貢献しているのです。

機械工学科の新入生のみなさまへ

機械工学科長 平社 信人

新入生のみなさん、保護者のみなさま、ご入学おめでとうございます。

機械工学科では、四力(よんりき)と呼ばれる力学を中心とした材料力学、熱力学、流体力学、機械力学などの専門科目をはじめ製図やメカトロ系科目などを学習します。また、**工作実習などの実技科目や設計製図などの実践科目**もあり、機械設計に必要な技能についても習熟します。また、機械工学科では、4年生の12月頃に卒業研究のための研究室配属が行われ、それぞれの専門分野を有する10名の教員からそれぞれ研究指導を受けます。



これらの高度な学問や研究を修め、日進月歩、急速に変革する科学技術に対応し得る技術者になるために、地道な学習習慣が必要となります。近道はありません。早期に自分にあった勉強スタイルを確立してください。

5年間、楽しい高専生活にいきましょう。

J科はコンピュータのハードウェアとソフトウェアを学ぶ学科です

電子情報工学科長 大境 聡

電子情報工学科(J科)入学生のみなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんは、群馬高専を受験するときにJ科について調べたと思います。J科はコンピュータのハードウェア(HW)とソフトウェア(SW)を学ぶ学科です、認識合っていましたでしょうか?もう生活になくはならないインターネットはコンピュータ網として



みればHWですし、コンピュータ網の制御やインターネットサービスとなるとSWです。AIが利用できるようにデータを学習するという意味ではSWですが、学習させる機械としてはHWです。J科では、HWである電子の部分と、SWである情報の部分を5年間かけて学んでいきます。J科のカリキュラムは、次の進路(就職・進学)で通用する、コンピュータのHWとSWの知識が身に付くようなものとなっています。これから5年間一緒に学んでいきましょう。

未来のCivil engineerへ

環境都市工学科長 谷村 嘉恵

1年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。入学式から二カ月ほど経ちました。授業は慣れたでしょうか。専門科目に興味を持ってそうでしょうか。新しい環境に馴染み、独自の学習方法を見つけ、課外活動などを通じて実りある高専生活を送りましょう。



皆さんのこれからの高専生活を支えるものの一つ目は、自然と調和し広々とした校舎や道路、快適な空調、自前の上・下水道などのインフラ、二つ目は、知識と技を教え、学習環境を整えてくれる教職員です。環境都市工学科では、インフラに関する材料・土質・水工・構造・都市・環境などのCivil engineerになるために必要不可欠な知識を学びます。そして、実験実習や総合プロジェクトなどのグループワークを通じて、Civil engineerが持つべき武器であるコミュニケーション能力を養っていきます。皆さんがCivil engineerとして成長していけるように応援しています。

若々しくひたむきに

一般教科長(自然科学) 宇治野 秀晃

青春の日々は、まばたきをする間に過ぎ去ります。これから本校で学び始めようとするみなさんには、これからの学びの日々がまだまだ長いもののように感じられるかもしれませんが、ですが、長い人生を考えれば、とても短いものです。

多くの若者が十代後半から二十代前半にかけて、進路を見定め、未来への第一歩を踏み出します。この短い青春の時期に、正解のない選択や、成功するかどうか分からない挑戦を経験する中で、自らを見つめ直し、信じ、前に進む勇気を持ち続けてほしいと思います。

選択や挑戦に失敗や苦勞はつきものです。しかし、涙や苦悩の中にこそ、新たな可能性や未来が見えてくるものです。努力と挑戦の先には、必ず成長につながる何かがあることを信じ、若々しくひたむきに学び続けてください。



将来に向けて

電子メディア工学科長 富澤 良行

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。電子メディア工学科(E科)は、エレクトロニクスに関連する分野の学問を行う学科です。E科では、「社会の変革に負けない技術者を育てる」ために、基礎学力の習得に重点を置いた講義や実験実習を行っています。さらに、専門科目として、電子材料・情報通信・エネルギーの3分野を中核に置き、基礎から応用までを系統的に学習しています。専門科目を修めるには、基礎からの地道な積み重ねが必要です。皆さんには、毎日の継続した地道な学習を期待します。

E科は、学習の成果が社会に生かされ、生活がこの上に成り立っていることが実感できる学科です。E科学生の将来の姿である科学技術に携わる者は、学習の成果が日々の生活に役立っている光景を目の当たりにしています。冥利に尽きるころです。皆さんもこの醍醐味を味わってみましょう。

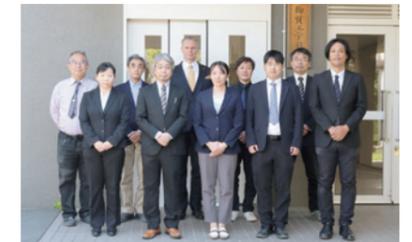


可能性を広げる5年間

物質工学科長 羽切 正英

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。物質工学科の学びの中心となる「化学」は、私たちの暮らしを根底から支える、非常に重要な学問です。基礎から応用に至るまで幅広く学び、実験を通して「なぜ?」に向き合い、答えを見つけていく力を養ってください。これからの5年間にはきっと、密度の高い学びや多くの挑戦が待っています。仲間と切磋琢磨し、ときには協力し合いながら、自分自身の可能性を大きく広げていってください。

かつて化学分野の産業や研究開発は、情報技術の導入・活用が遅れていたと言われてきました。しかし近年では、化学反応のシミュレーション、分子設計、データ分析、さらには新しい物質の探索に至るまで、情報技術が幅広く応用されています。これからの時代は、専門分野にとどまらず、幅広い知識や視野が求められます。在学中にさまざまなことにも挑戦し、変化の時代に柔軟に対応できる力を身につけていってください。



高専ならではの学び

教育研究支援センター長 辻 和秀

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。本校には、授業の支援や教員の研究を支援する「教育研究支援センター」があります。支援センターは、様々な専門分野の技能を身につけた技術職員と、知財に詳しい産学官連携コーディネータで構成されています。本校では、**実験や実習といった実践的な教育が5年間継続的におこなわれるカリキュラム**になっています。これらの教育は、教員はもとより、技術職員の方々がより学生に寄り添った指導を皆さんにしてくれます。実験や実習を安全に行い、高い技術力を身に付けてもらえるように、学生達を見守り、適切な助言を与えてくれます。これこそ、高専ならではの学び、高専のメリットの一つでしょう。実験や実習で困ったことなどありましたら、ぜひ技術職員に声を掛けてみてください。



着任挨拶

“Oh, Holden!” の和訳の正解はどれ？



一般教科（人文科学） 准教授
熊谷 由里子

初めまして。熊谷由里子と申します。一般教科（人文科学）英語科に所属しています。専門は英文学で1600年頃のイギリスの演劇研究をしています。さてAIが目覚ましい進歩もあり、外国語学習は無意味だという風潮が生まれています。本当にそうか考えてみたいと思います。サリンジャーの小説『ライ麦畑でつかまえて』の主人公 Holdenには妹がいます。妹は10才ですが、高校生の兄を心配し気遣うことができます。その妹が言ったのが、“Oh, Holden!”です。退学になったことを兄が隠していて、それを白状させた場面でした。「あーお兄ちゃん」といったあたりが良さそうです。文脈を無視した解釈は成立しないため、訳す人がその文脈をどう取るかで正解の和訳が決まります。正解は幾つもあり得ることになります。このように、複雑で、でも面白い外国語学習を皆さんと一緒にしたいと思っています。よろしくお祈りいたします。

日本最大の湖を有する県からやってきました



一般教科（自然科学） 准教授
成子 篤

2025年4月に一般教科（自然科学）准教授として本校に着任しました、成子篤と申します。研究の専門分野は、理論物理学、特に宇宙の歴史、重力の性質を明らかにする、宇宙論・重力理論ですが、本校では数学教科を担当します。見かけによらず、趣味は体を動かすこと。特にバドミントンとウィンタースポーツ（スキー&スノーボード）が好きです。バドミントンは小学生の時に始め、高校生まで本格的に競技に取り組みました。研究員としてフランスに滞在した時、シャンパーニュ地方で開催された大会で優勝し（とても上手な人とペアを組みました）、賞品としてシャンパンを頂いたことは、今でもいい思い出です。初めての高専のため、分からないことばかり。皆様にはご迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが、早く群馬高専の一戦力になれるよう、善処する所存です。学生および保護者の皆様、そして教職員の皆様、これからどうぞよろしくお願いいたします。

人との出会いを大切に



一般教科（自然科学） 助教
岩田 英人

本年度より一般教科（自然科学）助教として着任しました岩田英人（いわたひでと）と申します。数学を担当します。昨年度まで名古屋大学大学院にて博士研究員として在籍している傍ら、大学で非常勤講師をしておりました。専門は解析的整数論という比較的マイナーな分野を研究しています。人生は良くも悪くも人との出会いで左右される部分が大きいです。私の研究生活のスタートは30歳になる歳と、割と遅めのスタートでした。しかし指導教官は私を快く研究室に迎え入れてくれ、研究生活をサポートしてくれました。その方がいなければ、私はこの文章を書いていないでしょう。皆さんもご両親をはじめ、様々な人と接してきたことで今日の考え等が形成されてきたと思います。皆さんの人生に良い影響を与えられるような存在でありたいですし、影響を与えられるように日々精進したいと思います。これからよろしくお願いいたします。

教員としての第一歩



環境都市工学科 助教
幕田 早紀

2025年4月より、環境都市工学科の助教として着任いたしました幕田早紀（まくたさき）と申します。実は、私も高専出身です。学生時代に多くのことを学び、成長させていただいた場所に、今度は教員という立場に戻ってこられたことを、大変光栄に思っております。教員としてはまだまだ未熟ではありますが、学生の皆さんの「挑戦してみたい」という気持ちを後押しできるような教員を目指しています。ぜひ、気軽に話しかけていただくと嬉しいです。専門分野は、都市計画です。都市には、建築、交通、防災、ランドスケープなど、多くの課題が存在しています。魅力的な都市景観を形づくる要素や、これからの都市のあり方について、皆さんと共に探求していきたいと考えております。学生の皆さん、保護者の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

退任挨拶

心からの感謝を！そして、またどこかでお会いしましょう！

前校長 **三谷 卓也**
(現奈良国立大学機構理事長参与/監査室長)

令和4年4月に着任以来3年間過ごした群馬高専から、今年4月に奈良国立大学機構（奈良教育大学と奈良女子大学を設置する国立大学法人）に異動となりました。

新米校長としての3年間は、毎日、本当に色々なことがあり、私にとってチャレンジの毎日でした。入学式や卒業式の式辞を考えるのに悪戦苦闘したこと。教員や事務職員の皆さんと目の前の案件はもちろん将来を見据えて色々と議論して一つ一つ形にしたり外部資金等にチャレンジしたこと。体育祭や工華祭で学生の皆さんと楽しんだこと。学食や学生ホールなどでの学生さんたちとの何気ない会話。後援会や群嶺テクノ懇話会の皆さんと一緒に取り組んだこと。そして西湖で生まれて初めて野生のカワセミを見た感動や野草のてんぷらの味…。それらにもかまが皆懐かしく、私を成長させてくれたことに感謝してもしきれません。これら群馬高専での経験をこれからの仕事にも存分に活かして、引き続き、色々なことにチャレンジしていきたいと考えています。

ところで、先日、学食前の中庭を散歩するシカ君たちを撮っていた時のこと、私に声をかけてくれた学生さんは、なんと群馬高専の卒業生でした！これはとてもうれしかったです。皆さんも社会見学旅行や学会などで関西にお越しの際は、ぜひ奈良にもお立ち寄りください。そしてどこかで見かけたら、ぜひ声をかけてくださいね！

今後の群馬高専のご発展、そして教職員・学生の皆さんのますますのご活躍を心よりお祈りしています。



キャンパス内にシカがいるのが当たり前風景!?

令和7年度 本科・専攻科学校行事一覧

4月	4日	共	入学式
	7日	本	始業式、新入生歓迎会
	8日	共	授業開始
	9日～10日	共	健康診断
5月	—	—	—
6月	3日～9日	本	前期中間試験
	18日	共	球技大会
7月	24日～30日	本	前期定期試験
	31日～8月6日	専	前期定期試験
8月	7日～9月23日	専	夏季休業
	16日～9月15日	本	夏季休業
9月	16日～19日	本	4年生社会見学旅行
	17日	本	3年生研修旅行
	18日	本	1年生研修旅行
	19日	本	2年生研修旅行
	24日	共	後期授業開始
	24日	専	専攻科30周年記念式典
10月	2日	共	防災避難訓練
	11日～12日	本	ロボコン地区大会、プログラミングコンテスト

10月	25日～26日	共	工華祭
	8日	本	英語弁論大会
	8日～9日	本	デザインコンペティション
11月	16日	本	ロボコン全国大会
	20日～27日	本	後期中間試験
12月	20日	本	1～4年生保護者対象説明会
	26日～1月4日	共	冬季休業
1月	5日	共	授業再開
	19日	専	特別研究Ⅱ発表会
	20日～22日	本	卒業研究発表会
2月	30日～2月5日	本	後期定期試験
	2日～6日	専	後期定期試験
	20日	専	特別研究Ⅰ発表会
3月	24日～3月31日	専	学年末休業
	2日～31日	本	学年末休業
3月	19日	共	卒業式・修了式

本：本科／専：専攻科／共：共通

各施設から

学生相談室

学生相談室長 伊藤 文彦

学校生活は様々な活動から成り立っています。授業、課題、定期試験、工華祭、地区・全国体育大会、地区文化発表会、部活動、進路選択など、適度なレベルのストレスであれば、自己の成長に大いに役立つのですが、ストレスが多すぎると、精神的及び体力的な疲れから、自分のペースが崩れてしまうことがあります。ストレスが多かくなると感じた時は、生活のリズムが崩れる前に学生相談室を利用してください。さて、今号では日頃より親身に学生の良きアドバイザーになってくださっている本校のカウンセラー中村達生先生(公認心理師・臨床心理士)をご紹介します。



●相談室カウンセラー紹介



カウンセラー
(公認心理師・臨床心理士)
中村 達生

学生相談室カウンセラーの中村達生です。大学院修了後は心理療法家を志し、県内外の精神科病院や大学の臨床心理相談室などで、地域の方たちのメンタルヘルスに携わってきました。工業高等専門学校は専門性が高く、課題が多かったり、大学同様に卒業研究もあったりして、学業は容易なことではないでしょう。やもすると焦りや不安などを覚えて、進路に悩んだり、生きる意味が分からなくなったりする方もいらっしゃるかもしれません。カウンセリングでは、学業に集中できる工夫を考えたり、自分らしく生きるとは何かをしたりなど、これまでに培った経験や知見を、ささやかなりとも提供できればと思っています。真剣に生きているからこそその悩みです。どうか気軽に相談にいらしてください。



学生相談室を利用しよう

《学生相談室を利用するには》

- ◆保健室に連絡してください。
☎027-254-9065
- ◆保健室が不在の際は、インターカーに連絡してください。
インターカー 学生課学生支援係
☎027-254-9058 (学生支援係インターカー)
※インターカーとは…
相談を希望する学生や関係者の話を最初に聞き、援助のしかたを判断する人のことです。
話の内容によって適切な相談先(カウンセラー・相談室員・校医など)に取りつぎます。
- ◆電子メールでも予約できます。
✉ soudan@gunma-ct.ac.jp
- ◆ご家族の方からの相談も受け付けています。



《開室日と担当者》

- 月曜日 15:00~18:00
坪田カウンセラー
- 火曜日 17:00~19:00
中村カウンセラー
- 水曜日 13:00~16:00
内山カウンセラー
16:00~18:00
坪田カウンセラー
※毎月第3水曜日開室
- 木曜日 15:00~19:00
中村カウンセラー
- 金曜日 15:00~18:00
内山カウンセラー
- 不定期(必要に応じて)*要予約
河合カウンセラー



図書館

図書館での本との出会い

図書館長 雑賀 洋平

本校の図書館は、昭和45年3月に竣工して以来、55年にわたって、本校の教育・研究を中心とする活動を支援するために貢献してきました。現在では、自然科学、工学領域の蔵書のみならず、社会科学、語学、文学など広範な領域の蔵書も所蔵しており、蔵書数も11万冊を越えています。現在も、時代の要請に応えるためにも、「学生用図書の推薦」、「学生リクエスト」、「ブックハンティング」などの活動を通して、蔵書のさらなる充実を図っています。このように、本校の図書館には多くの蔵書が所蔵されていますが、一冊一冊の本には何かしらの魅力が必ずあると思っています。とくに学生の皆様には、ぜひとも図書館に足を運んでいただいて、本を手にとりてほしいと思っています。もしかすると、一生つき合うことになるかもしれない本との出会いが待っているかもしれません。



昭和45年図書館竣工当初
(群馬高専50年史より)

国際交流室

「飛び立とう！世界に向けて」

国際交流室長 熊谷 健

世界では紛争が絶えず、治安の悪化が進んでいる国や地域も多い時代です。日本を出ると常識の範囲を超えたことが多数あります。この時代に対応する人材育成のため、本校はグローバルエンジニア育成事業に取り組んでいます。昨年度、本校の海外研修学生数が年間100人を超えました。低学年ではオーストラリアにおける一週間のホームステイ語学研修、高学年においてはフィリピン・セブ島の3週間の語学研修、そして、文科省が支援する「トビタテ！留学JAPAN」もあります。本校には留学生もいますし、英語でのコミュニケーション力向上のため、「イングリッシュカフェ」も開催されます。その気になればいくらかでもグローバルな感覚を育てつつ、日本の良さを再認識して、充実した人生にすることができます。皆さん、国際交流室と共に、その一歩を踏み出してみませんか？



ダイバーシティ推進室

「ダイバーシティ推進室から」

ダイバーシティ推進室長 高橋 徹

「ダイバーシティ (Diversity)」とは何でしょうか？聞き慣れない単語かもしれませんが、英和辞典などで調べると「多様性」とあります。ダイバーシティ推進室は、人種・国籍・年齢・性別・身体的特徴・宗教・価値観など個々の多様性を理解・尊重し、互いに敬意を払えるような環境づくりを推進する部署ということになります。そもそも人間含む生物は多様性を持つ存在です。(日本国憲法にもあるように) 個々の人間は尊重されるべきという立場に立てば、自然に多様性の尊重につながるはずですし、ごく当たり前の概念かもしれません。いつの日か、互いの多様性を当たり前で認められるようになり、「ダイバーシティ推進」という言葉が世の中から消える日が来ることを願いつつ、目の前の課題の一つ一つ対処していきたいと思っています。



情報基盤センター

教育用計算機環境が新しくなりました

情報基盤センター長 川本 真一

2025年3月に情報基盤センター棟の第1演習室に配置した教育用計算機が新しくなりました。図書館棟にある第2演習室はBYOD (Bring Your Own Device) 環境として活用すべく、学生が持参するノートパソコンを接続する電源などが用意されています。学内の無線LAN接続は、接続要件を満たすユーザに対して、申請に応じて利用を許可しています。本校学生は、第1演習室および第2演習室を、放課後などの空き時間に利用することもできます。ただし共同利用施設を利用する場合、利用者はルールを守ることに加え、モラルやマナーも問われます。これは、学内ネットワークの利用についても同様です。利用する学生には情報リテラシーやセキュリティの学びを深め、意識を高めていくことが求められます。ルールの範囲内で学校にある資源をいかに活用するか、考えてみてはいかがでしょうか。



■インターンシップ支援室

会社のことをよく勉強しよう

インターンシップ支援室長 出口 米和

みなさん、こんにちは。令和7年度のインターンシップ支援室はM科の高山先生、E科の布施川先生、学生課の松本さんと一緒に担当していきます。よろしくお願いします。この原稿を書いている時には、インターンシップ説明会が



終了していますが、説明会会場に座りきれないくらい多くの学生が参加してくれました。みなさんのインターンシップに対する熱意の表れだと思い、大変嬉しく思っています。

これからインターンシップに参加し、社会経験を積むにあたって一つ頭において欲しいことがあります。これからインターンシップの候補になる会社について、皆さん自身で会社の事をよく勉強して下さい。会社名だけでは想像できないことに取組んだり、CMのイメージとは違う新しい展開をしている会社が多くあります。インターンシップを通して社会の勉強をしてください。

■進路支援室

進路支援室より

進路支援室長 中山 和夫

進路支援室は、学生の進路に関する情報の収集を主に行っています。昨年度は、進路支援室のTeamを作成し、令和5年度の「専攻科進学・大学編入学・就職試験受験報告書」をpdfファイルとして保管しました。後期には、大学の説明会等の情報を全学年にお知らせしてきました。今年度も受験報告書の保管と大学説明会のお知らせを同様に実施していきます。大学説明会は学年を問わず参加できる



ので、早めに大学のことを知り、学習をするようにしてください。

最後に、現5年生の人はそれぞれの受験が終わったら、受験報告書を作成して担任に提出してください。面接（口頭試問）のみの試験も増えているので、皆さんの経験が後輩につながるようにしてください。

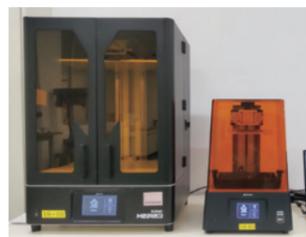
■産学連携アントレプレナーシップ教育工房

工房を活用しよう

アントレプレナーシップ教育工房長 辻 和秀



本校には、アントレプレナーシップ教育工房として、情報基盤センターの建物の中に「トライアルファクトリ」が、学生食堂2Fに「リアライズスタジオ」があります。「トライアルファクトリ」には工作機械や3Dプリンタなどアイデアを具現化し試作する場としての機能が、「リアライズスタジオ」には情報デジタル分野のアイデアを熟成させ具現化する機能があります。工房では、教育研究支援センターの技術職員や産学官連携コーディネータが学生を指導・支援しています。導入機器の講習会も毎年10回以上開催されています。工房は皆さんのチャレンジを、夢の実現を補助する場所です。これまでもDCONや高専起業家サミットなど様々なコンテストにも工房を利用した学生チームが参加しています。コンテスト以外の目的でも、開設以来、多くの学生が利用しています。皆さんも、ぜひ、積極的に利用してください。

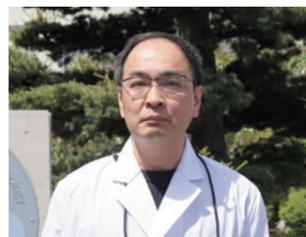


■地域連携テクノセンター

地域とつながる、未来をつくる—テクノセンターの挑戦

地域連携テクノセンター長 石川 英司

群馬高専には、地域と共に歩む「地域連携テクノセンター」があります。本センターには、非常勤のコーディネーターが週2日勤務し、企業・自治体・大学などとの橋渡し役として、産官学連携の「ハブ」として機能しています。



特に、桐生・太田・足利を中心とした「両毛地域」の研究機関とも連携を深めており、共同研究や技術相談の場としても活用されています。

また、地域企業の皆様に向けて、技術紹介や人材育成を目的とした各種セミナーを随時開催しております。どなたでも参加しやすい内容を心がけておりますので、ぜひお気軽にご参加ください。

私たちは、地域とともに「未来を創る技術者」を育てる拠点として、これからも挑戦を続けてまいります。

NEWS&TOPICS

社会課題解決のための学内アイデアコンテスト

「災害時のトイレ、備えてる？～高岡さん、優勝しました！！～」

4K 田中 はんな / 4K 中村 桃子 / 4C 菅谷 美羽
2M 青木 一真 / 2M 狩野 太志 / 2M 神宮 颯太



先日開催された第1回学内アイデアコンテストにて、私たち「知恵の泉ズ」は最優秀賞及び、前橋市役所様、上毛新聞社様、群栄化学工業株式会社様の3社から企業賞をいただきました。

メンターとなった株式会社柴田合成の高岡様のもとに集まった私たち6名は、世の中にはどんな社会課題があるかを調べることからスタートしました。本屋や新聞で収集した情報について、根拠となるデータを元の一つ一つ丁寧に読み解き、最終的に私たちが選んだテーマは、「災害発生後のトイレ問題」でした。高岡様に助言して頂いた「もし自分だったらどう感じるのか？」と想像して言葉とイメージを繋ぎ合わせる「記号接地」の考え方は、テーマ選定だけでなく、解決策を考える上でも大きな決め手となりました。全20回以上に亘る会議を行いました。社会課題についてじっくりと考えることで、非常に多くの学びを得ることが出来ました。社会課題の解決の一貫として、ビジネスから離れて簡易トイレの作り方を広く周知したいと考え発表したマニュアルなどは、QRコードから閲覧できるので、私たちの集大成を見て頂けると幸いです。

アイデアコンテストの運営をされた関係者の皆様および、協力して頂いた企業の皆様、特にメンターとして懇切丁寧なサポートをくださった高岡様に、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



ディープラーニングコンテスト2025 (DCON2025)

まだ誰も到達したことのないミライへ

5C 内海 璃久

はいどうもー！合成音声研究会Dチームです。5月8日から10日にかけて渋谷で開催されたDCON2025本選に参加してきました。私たちは、バーチャルライブのシステムを根底から覆す装置『アバタードーム』の開発、提案を行いました。この装置は、VTuberをはじめとした2次元のキャラクターが3次元に飛び出し、ライブ会場に設置された花道を歩いたり、客席に近づいたりできるようにするために、モーションキャプチャとAIを用いて動きや移動のデータを生成する移動型の全方位投影装置です。いろいろと苦労もありましたが、本選では、アバタードーム本体が無事に動き、企業評価額2000万円を獲得することができました。また、他のどのチームよりも会場を盛り上げることに成功したと自負しています。

このような成果を得られたのはチームメンバーが一丸となったからだけでなく、メンターの岩佐さんやDCON事務局や運営の皆様をはじめ、ここまで支えていただいた指導教員・技術職員・コーディネータのなど多くの人の協力があったからだと考えています。

はじめは「本当にできるのか？」と半信半疑なことでも、一歩踏み出して挑戦してみると、困難はあっても達成できることが分かりました。「挑戦する」の候補にDCONは最適です。これを読んだ皆様のやる気を後押しできたら幸いです。



短期語学研修

留学のすゝめ

2J 小林 悠樹



私は1週間、オーストラリアのシドニーに短期留学し、ホームステイを体験しました。初めての海外旅行で英語もわからず右も左もわからない状態でしたが、先生や先輩方の助けにより、安心安全な学習や観光を堪能することができました。基本的には午前中は現地の語学学校でオーストラリアの地理や生態などを学びながら楽しく英語を勉強し、午後は街に繰り出し、観光をするという生活をしていました。具体的には、オペラハウスやボンダイビーチなど、有名な観光地です。また、UTSと言う現地の工科大学を見学してもらい、最先端の技術の片鱗を見ることができました。ホームステイ先では、ホストファミリーが積極的に話しかけてくれて、退屈せずに過ごすことができました。海外に少しでも興味がある人には、ぜひ短期留学をおすすめします。きっと新しい発見や学びがあるはずですよ。

第2回高専マテリアルコンテスト

マテコン参加報告

2E 滝沢 文菜 / 2K 水谷 愛里



私たちは3月に久留米工業高等専門学校で開催されたマテリアルコンテストに参加し、マテコン大賞を受賞しました。このような賞をいただいて大変うれしく思います。

本コンテストでは、鉄の靱性についての研究結果を競いました。私たちは材料学の知識のないところからスタートしましたが、「鉄」という物質の性質から学び、実際に試料を加工し研究を進めることができました。

今回は、全国の高専5チームが集まり、コンテストのほかにも鍛造実習体験や他高専の学生や先生、企業の方、大学の先生などとの交流会があり、親睦を深めて様々なお話を聞くことができました。他分野の知識を深めるのは自分たちにとっては未知の体験でワクワクし、新たに多くのことを学ぶことができました。

編集後記

今年度より広報委員長を務めさせていただくこととなりました。広報活動を通じて多くの情報をみなさんに伝えられたらと思います。学校だより135号は新入生へのメッセージが多く綴られていますが、在校生にも初心を思い返す機会となり、改めて高専生全員への激励になっていると思います。私の群馬高専の好きなおところNo.1は魅力的な高専生たちです。まずは、周り的高専生、鏡に映る自分の好きなおところを見つけてみてください。
(広報委員長 大岡 久子)

令和6年度全国高等学校選抜自転車競技大会

全国選抜大会を経験して得たもの

2C 松村 拓弥



本番までの期間で特に意識した事は、トレーニングの質と合わせて「体調管理」を徹底した事です。大会に向けて努力したとしても、本番で風邪をひいてしまえばすべて水の泡になってしまいます。

大会最終日の個人ロードレースでは、残り10km付近で自分を含め集団から2名の逃げが決まり、その後は自分から積極的にペースを上げるなど自分自身との戦いでした。その結果、最後の1kmでもう1名を離し、逃げ切って誰よりも早くゴールラインを通過する事ができました。初めて全国の舞台で優勝する事ができたので、結果だけでなく、練習の成果と共に達成感を得られました。優勝する事ができたのは、今まで指導して下さった顧問の先生や家族の支えがあったからだと思います。全国大会で優勝する事がゴールでは無いので、海外でも活躍できるような選手になれるよう日々努力していこうと思います。

日本機械学会関東支部第31期総会・講演会

学会がくれた刺激と学び

生産システム工学専攻2年 小此木 悠希



令和7年3月3日～4日に日本機械学会第31期関東支部総会・講演会が埼玉大学で開催され、若手優秀講演賞をいただきました。私は「ダイカスト金型の冷却能力と金型寿命に及ぼすUFB含有水の影響」と題して発表を行いました。ダイカストとは、金属を溶かして高圧で金型に流し込み凝固させることで製品を造る工法です。凝固させる際に用いる冷却水の冷却性能が向上すれば、環境負荷の低減などのメリットが得られます。対面での学会発表は初めてで緊張しましたが、学外の先生からご意見をいただくことができたり、懇親会で他大学の学生とお話をしたりと貴重な体験になりました。最後になりますが、研究を始めてから今日まで丁寧にご指導をしてくださった黒瀬先生、高山先生に深く感謝申し上げます。